

とらすととれいん

No.82 1996

SEPTEMBER

参加者総数何と28名！ トラストトレインの暑い夏！！ 電子メール申込開始！早速2名様参加！！

8月31日、今年の第5回目のトラストトレインの運転が行われ、運転前のボランティアに、何と28名の方が参加してくださいました。夏休み最後とあって家族揃っての参加も3組あり、とても和やかな雰囲気の中にボランティアを終了することができました。また、最近とみに増えてきた取材も、今回は2社が来訪する盛況ぶり。掲載が今から楽しみです！



7月13日の運行状況

ボランティア	19名
乗客数	下り 177名
	上り 130名

8月31日の運行状況

ボランティア	28名
乗客数	下り 90名
	上り 42名

トラストトレイン便り（8月のボランティアから）

最初から私事で恐縮ですが、平成4年8月のトラストトレインボランティアが初参加だったワタシにとって、今回の運行が、参加するようになってから満4年ということになります。当時はボランティアの参加人数がとても少なく、「こりゃ大変なトコロに首を突っ込んだんじゃないか」と思ったものでした。その頃と今を比べると、たった4年なのに隔世の感があります。願わくば、この盛況がいつまでも続きますように。

さて今回のトラストトレインボランティアを見ていて思ったことが2つあります。

1、家族ぐるみでのボランティア参加。

トラストトレインも来年で運行10周年を迎えるのですが、最近では家族ぐるみでの参加が多くなってきたように見受けられます。今回も3組の家族連れ、親子連れの参加があったわけですが、家族のコミュニケーションと

いう点からも、非常に好ましい現象だと思いますし、また、トラストの活動の目的である、「貴重な文化財を後世に伝える」という観点からも、本や博物館では絶対に体験することのできないナマの迫力を体験できるという点で、



読売新聞の小・中・高のライターたち

とても良いことだと思います。喜々として機関車を磨いている子供達がとても輝いて見えたのは、取材陣だけではなかったはず。現地までの交通費その他諸々の手間を考えるといろいろ問題もあるかもしれませんが、これをご覧になっている会員の皆さんも、是非家族連れ、親子連れで参加してみてください。

2、メディアの取り上げ方の変化。

今回取材にお見えになったの1社は、新聞/テレビではなく、ランドローバーマガジンという自動車雑誌でした。「鉄道になぜ自動車雑誌が？」皆さんそう思われることでしょう。今回財団の

松本さんから同誌の取材対応を任されていたワタシも当然同じ疑問を持ったので、事前打ち合わせのときにエディターの方に取材意図を尋ねてみました。すると、次のような答えが返ってきたのです。いわぐランドローバーの故郷であるイギリス

では、自分達の子孫に自然や文化遺産を残そうというトラスト運動が盛んだが、日本でも同じ様な活動が、様々な人が参加して、様々な場所で行われるようになってきている。しかしながらまだまだ知られていないのが現状であり、また今の四駆ブームも、一つ間違えば自然破壊に繋がりがねない危険をはらんでいる。ランドローバーに乗



先生役で活躍する金子君



ナマのSLを前にビックリの子供たち



出発を前に、雑誌の見開き写真撮影風景

る、というかランドローバーを選んだ人というのは、浮わつたブームに踊らされているのではなく、イギリスのライフスタイルそのものを欲しているのではないか。それなら日本でそのような活動を実践している場所や人を紹介しようではないか。」意外なことに、この『日本のトラスト活動をランドローバーと共に訪れる』記事は評判がいいそうで、今回で4回目になるのだとか。今までメディアが私たちのことを取り上げる場合、どうしても鉄道マニアのお遊びというか、その延長線上で取り上げられがちだったわ

けですが、やっとトラスト運動の本質を理解して取材していただけるようになったかと思うと、参加者のひとりとして大変嬉しく思うわけです。

当事者の一人として、現状の活動に全く問題がないとは思いませんが、トラストが10年余に渡って活動を続けてきたことによって、様々な良い状況が見られるようになったというのは、大きな収穫ではないかと思います。これからも、ゆっくりとあせらずに、しかし着実にこの活動が続いていくことを願わずにはいません。 小城 崇史



車内でのチラシ配りや募金のお願いに大活躍する子供たち 記念スタンプも大好評で順番待ちが出るほど



四国松山 伊予鉄道6時間訪問記

黄 葆生

平成8年7月15日、ひよんな事で愛媛県松山の伊予銀行本店まで出張する事になった。

前日の7月14日娘たちと市内のファミレスで夕食の後、ちょうど2日間の帰省後東京へ戻る弟と一緒にJR西宮へ。弟は新大阪へ向かい、自分は住吉から六甲ライナーと連絡バスを乗り継ぎ、大分行ダイヤモンドフェリーの六甲アイランド発着場へ。2時間の待ち合わせの後いよいよ出港。何年振りかの船旅だ。今日取った席は「グリーン寝台」一部屋に上下2段になった寝台が全部で16(上8下8)あり一番奥の下段ベッドがその日割り当てられたスペースであった。高さが少し窮屈であるが巾は十分ありJR寝台と比べてみて運賃込みで¥6,500は値打ちだ。しかし浴衣とハンガーがついていないのは不便だ。

翌朝早めに営業を始めた船内カフェテリアでややヘビーな和定食を取った後、午前6時10分ほど定刻通り松山観光港で下船。ところが早朝でバス・タクシーは

所定の場所にまだいない。止むなく前日銀行の人から聞いていた伊予鉄道高浜駅へ。地元の人何人が同じ行動をとるらしく、その人達の後をついていったからよかったものの途中それらしき道案内は何もない。10分程の道程より、その方が不便であった。ともあれ6:30高浜駅に到着。さすがは日本で2番目に古い私鉄。この高浜駅舎も開通当時の雰囲気をも三津駅と共に今に伝える貴重な資料である。

6:47の電車に乗ってまずは松山市駅へ。ここも当然国鉄予讃線松山駅ができる前にできていた。大手デパートも駅ビルの中へ入りやはりにこの方が繁華街の中心である。9:30の銀行での面会時間まで間があるので、ここから「市内電車」松山の人々は伊予鉄道軌道線の事を親しみを込めてこう呼ぶ)に乗り道後温泉へ。道後温泉駅は1988年創業100周年を記念して伊予鉄が当初の姿に復元改築した「レプリカ駅舎」であるが、かなり忠実に再現されており、鉄道ファンならずとも

好感と親しみをもてる建物である。文化財に指定するか、何かの賞をあげてほしいくらいである。

駅舎を何枚か撮ったあとあこがれの道後本館へ。時間が余らないので2階の大広間での休憩と神の湯に入るコースにしたが、それでも、昭和天皇専用の浴室や、昔、夏目漱石が泊まったと言う部屋を覗かせてもらって、誰でもタイムスリップした気持ちになれる。お湯は熱目で長くは入れなかったが、頭と体を丁寧に洗い流し浴槽に少し我慢して長めに入った後の冷たい湯上がりは格別であった。

8:50に温泉を後に市内電車です役所前まで戻り9:30の約束した時間に参上したが、肝心の海外からの書類がまだ整理しきれていない。11:30に再度来る約束をして、その間を利用して市内線を一周する事にした。松山駅前の手前大手町にさっき乗ってきた鉄道線を軌道線が90度に横切る所がある。これは一昔前京都市電と京阪・京福・京津の各線との交差点でよく見られた。軌道線は車と一緒に踏切と道路信号に従って行動する。伊予鉄にはもう一ヶ所鉄道と軌道線が交差する場所が古町と言う所にある。この部分軌道線も実は専用軌道、つまり免許上は普通の鉄道と同じ扱いを受けている。従ってポイント・構内・出発の各信号に2つの線路の双方向とも従わねばならず、軌道線が鉄道線を渡っている間は両方向の鉄道線(高浜線)は全くストップである。昼間でも高浜線は15分、市内線は10分の運転間隔を維持してお



鉄道線を渡る市内線(古町)



道後温泉駅

り、これが朝夕のラッシュ時間帯になると大変な管理になるはずである。その昔阪急西宮北口にあった平面交差でも、神戸線と今津線が出会い頭に斜めにぶつかる事故が一度だけあったが、ここはそういう事故があったとは一度も聞いておらず、関係者の努力に敬意を表したく思う次第

である。

市内電車は450円の日乗り放題切符や同社バスとの共通カード式乗車券もある。一日乗車券は大阪市交のそれ(850円)よりはるかに安く、カード式乗車券は1,000円分でも少しおまげがついており、JRとの競争に押され気味なのに5,000円分カードでも

おまけを全然つけない在阪私鉄はぜひ見習ってほしいものである。

JR松山から古町・清水町・鉄砲町と言った古い城下町の雰囲気を残す町を、車窓から駆け足で眺める市内電車はもう一度松山城の麓を通過して、市役所に戻ってきた。11:30の再度の約束時間には少し間があるので、まだ読んでいなかったその日の朝刊を店内で少し読ませて頂く。11:30無事に書類を頂戴し、銀行の方は松山空港までタクシーを飛ばすのを薦めてくれたが、この前3つの系統が殆ど2~3分おきに発着している市内線でまず松山市駅まで戻り降りて聞いてみたら空港行きのバスが丁度12時に出ると言う切符を急いで買って飛び乗ったらすぐに発車した。たった6時間ではあったが、充実した市内交通網の恩恵を充分受けた今回の松山訪問に相応しい幕切れであった。

多賀SLパーク跡の近況

先日、久しぶりに見に行くと、なんとまあ、スハネ16の3両と建物が見事に消えていました。

実は昨年に、ボヤ騒ぎによってレストラン裏手のプレハブ小屋が焼失した経緯があり、その時は、車両には被害が及んでいないのは確認していましたが、それ以降見には来ていなかったのです。

状況からして、スハネは現場で切断・解体されて搬出されたものと思われます。おそらくレッカー車等重機の進入・作業場所を確保するのに、手前のレストランを先に解体したのではないで

しょうか。この現場を目の当たりにしたとき、子供の頃に飼っていたひよこが野良猫に食い散らかされてしまった跡を思い起こして、とても薄気味悪い思いがしました。

米原で見つけたキ555

ラッセル車の保存車両を米原町で見つけました。

これはJR米原駅西口から琵琶湖に向かって歩くこと約10分、米原町役場の駐車場に保存されているものです。部品の盗難もなく、外観も雨ざらしの割にはと

残されたD51の行く末が気になります。ともかく、ボロボロであったとはいえ、貴重な10系寝台車が解体されてしまったのは、かえすがえす残念です。ついでなのか、「SLパーク」の丸い看板も根元から撤去されていました。

ても綺麗です。

経緯等が立て看板に記されています。やはり、米原は“鉄道の町”なのでしょう。

滋賀県彦根市 氏野正己

(いずれも写真は次ページ)



ホーム風な段差と線路だけが残る



1台ポツンと残されたD51



米原町役場駐車場のキ555



シベリア鉄道のスピードアップ

後藤正治

1985年、私はドイツ鉄道150年祭を見に行きましたが、いつもの癖で「+アルファ」として、ハバロフスクからシベリア鉄道経由で行きました。世界最長9000km、客車に一週間、期待に反して車窓をふくめて実に単調な毎日だったのです。(社会主義の国を見る事を別に)

ですが距離に比例した日本では考えられないようなトラブルにも出会いました。

現在のロシアもそうですが、ソ連国鉄は全国モスクワ時間で運転しており、ウラジオストック、ハバロフスク等極東地方とは7時間の時差があり、その為に駅には列車運行のモスクワタイムと現地時間を知らせる2つの時計が有るのです。

長い間乗ってシベリアボケになったのか、モスクワ着の直前には時間の感覚が麻痺しかけてた様です。モスクワに着いて、シベリアボケの頭に問題が起きたのです。

ホーム出迎えのインツォーリスト(国営旅行社)の係員が他の乗客を皆指定のホテルへ手配の車で行かせてしまっているのに、私一人を駅の待合室に残し事務室に入っただけで出てこないのです。20~30分位待つて、出て来たなと思ったら「今日のホテルの予約はない」と言うだ

が車の運転手と何やら話をし、いなくなる。そして車に乗ると、明日から泊まるホテルに着いたのです。その時頭の中は、計画経済のこの国でフリー客が泊まれるのか?何故今日のホテル予約が入っていないのか?自分の時計の日付はあったのか?色々考えてみた。言葉が分からないから余計に不安でした。

だが、翌日原因は分かった。「ダイヤ改正によるスピードアップ」ソ連国鉄は旅行出発直前の6月、ロシア号を17時間ものスピードアップによるダイヤ改正を

したのです。せいぜい1時間か2時間アップの何処かの国とは桁はずれなのです。ただ計画中には発表せず、改正後、出発日迄日数がなく、日本の旅行社の手配ミスにより、こんな事になったのです。改正に依り旧ダイヤで見られなかったはずのバイカル湖畔を昼間ずーっと見られた事はラッキーでした。

予定より早く着いた事には全然気付かなかったのだから、ひどいシベリアボケです。良く云えばロシア人の様に大様に成ったのかも知れません。

	ロシア号 1レ				
年 月	81 / 8	85 / 5	85 / 8	89 / 1	95 / 7
ウラジオストック発	16:10	23:10	17:25	00:25	17:55
モスクワ着	15:05	15:05	16:40	15:50	06:45
足掛日数	8日	8日	7日	6日	8日



1等寝台コンパートメントで同室者と
(この様な2人室寝台車は15~16両の列車の中に1両だった)

定例会報告

6月の定例会から

・サ - クルマ - クについて:

現在鋭意進行中(但し完成まではもう少しかかる見込み)

・トラストレイン関連:

6月の運転報告(先月号のサークル報で報告)

関連事項 作業時の名札・服装について

海老原が中心となり検討する旨約束したが未着手の状態(申し訳ありません)

関連事項 車内禁煙について

喫煙スペースを設けては等の意見も出たが後日財団に確認...運輸省の客車の認可条件の中に禁煙の項あり(不燃化構造ではないため)...従来通り車内禁煙

・活動記録について:

着手した旨を報告

編集方法としての案、また対外的か対内的にするのかの意見があった。

内部(財団・サークル)資料として使えるものにするのが第一ステップ。それから先は第二ステップ。編集方法は検討中

・会計監査より:

現状の会計内容を報告

・その他:

ヨ5000の活用方法について(補修・新たな魅力作り等)

7月の定例会から

・トラストレイン関連:

7月の運転報告

・サークル総会について:

今年の総会の運営について報告

・連絡事項:

今回の関西例会...9月8日(日)PM1:00~大阪交通科学博物館にて

鉄道サークルの活動記録のまとめとご協力のお願い

・鉄道サークルの活動記録写真提供のお願い

只今サークルでは来年トラストレインが運転10周年を迎えるにあたり、これまでのサークルの歴史を整理しようと、年内を目処に活動記録をまとめ始めました。

まとめた記録は事務局に保管するとともに、何らかの形で発表したいと考えています。先日有志にて調査したところ、昔の行事を中心に別表の記録が抜けておりました。そこでお願いなのですが、もし会員の皆さんで当時の記録にお心当たりの方がおりましたら、写真の提供をお願い出来ませんか。

ご協力頂ける方は下記要領で事務局(海老原)までお送り下さい。お手数ですが宜しくお願い致します。

募集要領

カラーまたは白黒プリント(原板は責任がもてませんのでネガ・ポジは不可)

サイズはサービス判~キャビネ判

裏面に1枚ずつ提供者名、撮影年月日、行事名を記入したデータシートをメンディングテープで貼り

付けて下さい

送り先:海老原まで郵送して下さい。

115 東京都北区神谷3-50-10 海老原 英治

締切り:勝手ながら9月末日とさせていただきます

・今後の活動記録のまとめについて

前述の活動記録のまとめと関連して、今後もサークルの行事等の記録をまとめ、残してゆくため、6月より活動記録 名前は仮称です というメモを各行事ごとにとることにしました。

このメモは活動内容・参加者・感想・連絡事項などを簡単に記入するもので、今までもサークル報などを通じて報告されている見学会等のレポートと併せて活用し、単年毎に活動のまとめを行なっていく予定です。

また前述しました様に、折角の行事も記録が残っていないものがありました。これからはその様な事が無い様に、各行事毎の記録を残して行きたいと思っています。

これもまたお願いなのですが、これから各行事で撮影された写真(なるべく出席者・状況の判るもの)を1~2枚ご提供頂けませんか。

送付先は事務局 海老原 まで、要領は先の活動記録の写真と同様です。できれば行事から1ヶ月程度でお願いします。

以上、従来にない手間の掛かるお願いですが、ご協力の程よろしくお願い致します。

写真の記録が抜けているもの

- 86年 9/13・14 第一回鉄道サークル総会(寸又峡温泉)
- 87年 3/7(土) 見学会 明治の煉瓦隧道と元新京阪電鉄の電車
4/4(土) 見学会 高槻付近「カルバート」
6/7(日) 見学会 旧大阪電気軌道富雄変電所
10/18(日) 第二回鉄道サークル総会(金谷・百楽園)
11/23(祝) 見学会 加茂駅及びその周辺
- 88年 9/4(日) 見学会 中京地区の無名の鉄道文化財
10/22(土) 見学会 横川及び高崎機関区
11/6(日) 見学会 宝塚ファミリーランド電車館
12/10(土) 町並み見学 都電乗ろう会・忘年会
- 89年 1/15(祝) 見学会 武州鉄道跡
2/9(木) 第二回鉄道文化財を考えるシンポジウム(銀座・ガスホール/財団)
2/19(日) 見学会 保津峡お別れ列車と稲荷駅ランプ小屋を訪ねて
3/5(日) 第三回鉄道サークル総会(神楽坂・エミール)
5/20(土) 見学会 大宮工場
7/23(日) 見学会 生野銀山周辺の構造物探訪
- 90年 3/3・4 鉄道サークル総会(奈良・大乘苑)
3/24(土) トラストレイン補修
4/8(日) 見学会 兵庫駅舎及び周辺の煉瓦構造物
8/5(日) 見学会 井川線アプト線路とアプト式EL
見学会 出雲
12/1(土) 見学会&忘年会(伊豆・虹の郷)
- 91年 10/21(水) 品川・戸越公園のC12 7より部品調達(財団)
- 92年 9/25~11/27 写真展 C12とその客車たち(大井川鉄道千頭駅・SL資料館)

いんぷおめいしょん

新刊紹介

イギリス鈍行列車の旅

小池 滋



これほど贅沢な鉄道旅行はない!!

ロンドン、スコットランド、アイルランド。

人間観察、風景堪能、その日その時の刺激的で楽しいローカル列車の魅力の数々。著者としておきの書き下ろし紀行。

鉄道の旅を楽しみたいと思ったら、鈍行列車に限る。そこで私は、ごくあたり前の地域を走る、ごくありふれた 主として鈍行列車に、これから登場してもらおうことにしよう。いまでは、もはや乗ることができなくなってしまった路線や列車、あるいは、いまだに存続していても、ほとんどの人が気づかないか、かりに気づいても関心をもたない路線を走る列車ばかりを紹介しようと思う。

(本文より)

NTT出版 1300円

鉄道サークル関西主催

トラストハイクのお誘い

大阪近郊に今も残る明治の遺跡。しかもこれほど完全な姿を残す遺跡は珍しいとおもわれます。その大仏線跡をたどる今回は第2回目のトラストハイクです。多数のご参加をお待ちします。

開催日時 96年10月10日 10:00

集合場所 JR 関西本線・加茂駅構内

(本屋西寄りランプ小屋付近)

行程 跨線橋橋台・ランプ小屋を見学後、大仏線跡をトラストハイクします。

昼食・お茶・敷物等ご持参下さい。途中で店等は有りません。

屋外で弁当を食べます。(雨天 = 中止)

参加資料代 200円 参加申し込みは不要です。

関東地区定例会のお知らせ

10月2日(水) P M7:00 ~ 財団事務所

(JR 東京駅前 丸ビル414号室)

スハフ43のカーテン募金にご協力を

トラストレインに最近乗られた方は気が付かれたかも知れませんが、スハフ43のカーテンが老朽化のために、かなり悲惨な状態になっています。

そのために財団では、カーテンの全面的な取り替えのための募金を広く一般から募集しています。募金の内容はカーテン1枚3万円で、限定78口(スハフ43の2両分)となっており、募金した人の名前を車内に刻むそうです。

ご協力いただける方は、郵便振替で

00120-2-106140 財団法人日本ナショナルトラスト
まで、通信欄に必ず「トラストレイン・カーテン募金」と明記の上お送り下さい。詳しくは財団事務局へお問い合わせ下さい。

編 集 後 記

なぜか最近とっても忙しくて、でもグチも言わずにマジメに働いている。えっ、なぜかって？ だってマジメに働かないと10月にやってくるはずのニコンF5のお金が払えないから... (小城)

只今9月26日の午前2時55分です。なのに、こんなものをまだ書いています。さらにこれをプリントアウトしなければなりません。さあ、この会報が皆様の所に届くのはいつになるでしょうか。(田)